

開催地名：沖縄県那覇市	
開催日時	令和元年 11 月 16 日（土） 10：00 ～ 12：00
開催場所	なは市民協働プラザ
語り部	仲條 富夫 （千葉県旭市）
参加者	地域住民、自治会、P T A、自主防災組織等 約 20 名
開催経緯	甚大な被害を伴う災害が発生していないこともあり、住民の危機意識が低く、自主防災組織の結成がなかなか進まない。（自主防災組織の結成率が全国平均と比べて極端に低い）また、島嶼県ということもあり、大規模災害の経験者から直に話を聞く機会が少ないことから、今回のご講演を機会に、自主防災組織の結成と今後の防災活動の糧としたいと考えている。
内容	<p>（1）大震災当日の状況</p> <p>大地震のおよそ 1 時間後、津波第一波が襲来して自宅の中まで被害を受ける。2 階建て家屋の 1 階に 88 歳の寝たきりの母親がいた。（自力では動けない状況で介護ベッドに横たわっていた）しかし、そのベッドが特殊な構造のおかげでびくとも動かずそれが幸いして彼女は無事だった。それでも、家屋自体はめちゃくちゃな状況だった。その後の第二波の襲来は免れたため、近隣住民の救助へ向かうも、更に襲来した第三波の津波に巻き込まれ自身が流されてしまった。幸いにも近所の魚屋のアルミサッシに引っかかり、九死に一生を得た。</p> <p>（2）震災の体験談</p> <p>地震に限らずに各種災害が起こった時には、まず家族の安否が一番重要だと思う。いざと言う時に備えて、「緊急時には〇〇にとりあえず行こう」等、お互いの所在確認、ないしは決め事をしっかりと作っておく。その次に、近所において自力で動けない方や弱者の対応を行うことが望ましい。</p> <p>あわせて、常に何かあったら災害に限らず、すぐに行動に移せるように地域ぐるみで集まって訓練を重ねておくと思う。そして、行政の対応はどうしても遅れる傾向にあるので、災害発生後 72 時間程度までは、自助と共助で対応する必要がある。（その後によりやく態勢が整って、公助が入るとというのが実際である）そのため、公助が機能するまでは、他所からきたボランティアの方々に頼るケースが出てくると思うが、各地域などの命令指示系統がしっかりしていないと、せっかく来ていただいても結局は無用の長物となってしまう可能性が高い。予めの連携、理解が重要である。</p> <p>支援物資の配給の目途がある程度経つと、今度はコンビニ、スーパー、ガソリンスタンドに人が殺到し、十分な量があるにもかかわらず、「またすぐに災害が来て無くなったらどうしよう」という精神状態に陥り、必要も無いのに通常以上</p>

の量を買占めるといった事態が数多く発生した。そのため、本当に必要な方に行き渡らないケースも多く見受けられた。奪い合うのではなく、お互いに譲り合う精神を持たないといけない。奪い合いは更に状況の悪化を生むだけである。

最後に、地震に限らず、各種災害が襲った際には「自分は逃げなくても大丈夫」と過信はせず、各種メディア等の情報を参考にして、自主的に早め早めの避難を是非心がけていただきたい。

(3) 震災を体験して

実際に被害に遭うと、お互いにかかる言葉は決まっているが、いざというときになるとその言葉が出てこなくなる。もぬけの殻状態になり、活気が無くなってしまう。従って、何かしら、一言でも良いので声かけをして、お互いに励ましあっていくことが復興に向けての第一歩につながると思う。



開催地より

被災された方の生の体験談だったので、発生当時の状況、その後の取組等、多岐に渡って聞くことができた。地元でもここで聞いたこと、学んだことを参考にして更なる防災対策に取り組む必要があると改めて感じた。